

オリジナリティー輝く

はちのへ演劇祭 あすまで はっちで

青森県南地方の演劇人を中心とする「第8回はちのへ演劇祭」が、八戸市の「はっち」で開かれており、同市、青森市の6劇団が、オリジナリティー輝く短編を届けている。29日まで。

(小林彩乃)

八戸、青森の6劇団出演



現代に生きる座敷わらしたちを描いた「ザシキワラシさ〜ん」の一場面

演劇祭は、八戸近郊で芝居の上演が盛んだった1980〜90年代の活気を取り戻し、演劇の力で地元を元気にしようと、2012年に始まった。

26日、本番同様に舞台上で稽古する最終リハーサル「ゲネプロ」には、八戸市内の4団体が参加した。

このうち、八戸学院大演劇部は、同部の指導を担当する市公民館の榎谷伸夫館長が脚本と演出を手掛けた「ザシキワラシさ〜ん」を披露。自然災害が増えた現代の日本で、人々を幸せにする力を失った座敷わらしたちの葛藤を、情感豊かに演じた。

部長の3年高坂大誠さん(21)は同作について「コミカルな場面と、考えさせられるような場面のギャップを楽しんでほしい」とPRし、「見てくれた人が、八戸で演劇をやりたいと思ってもらえるような舞台になれば」と意気込みを語った。

演劇祭は28日午前11時、午後3時、6時、29日午前11時、午後3時。

前売り一般1200円、学生700円。当日は各300円増し。